



大岡昇平全集

第十四卷

大岡昇平全集 第十四卷

定價 三五〇〇円

昭和五十年二月二十日 印刷

昭和五十年二月二十八日 発行

著者 大岡昇平

発行者 高梨 茂

印刷者 山田 博

発行所 中央公論社

東京都中央区京橋二丁目

電話(五六一)五九二二

〒104 振替東京三四

検印廃止

©一九七五

大岡昇平全集 第十四卷 目次

評論 四

歴史小説の問題

I

歴史小説の問題

II

叙事詩的錯誤について

英雄の諸形態

III

歴史小説の発生

日本の歴史小説

歴史小説の美学

歴史其儘と歴史離れ

江馬修 「山の民」

現代史としての歴史小説

あとがき

子供の眼

『白痴群』複製版解説

第二の戦後か

宮沢賢治と中原中也

ルバング島の悲劇

ルバング戦記

戦後文学の二十九年

戦後三十年

面影

随筆

フランス映画と私

チャーチル『第二次世界大戦回顧録』

夏の旅

書物に欺かれる現代人

軍隊と俘虜生活

私の読書遍歴

裁判

路地の家

巴里の酢豆腐

新聞記者の思い出

今ちゃんの冒険

シュツットガルト室内楽団の楽しさ

感謝

文壇天狗族

探偵小説の面白さ

仏文の思い出

テレビの効用

自己克服のゴルフ

ゴルフ旅行

酒品

海辺の若者たち

フランスへの郷愁

イカリの尾崎

書齋の憂鬱

烏鷺の弁

文士の演技

ヤガラ一味

芝居のLP

球を追うゴルフ―景色を見ず

東京のトンボ・信州のトンボ

テレビ・スポーツの魅力

海辺の住い

男は溺れる

なつかしい歌

大磯奇談

桶谷繁雄先生に訴う

カミナリ息子

芝生と犬と

カミナリ息子顛末記

現代生活とテレビ・映画

詩人

手術以後

本は書いたけれど	235
舞台の謀叛人たち	237
わがテレフォンケン	241
戦争の思い出	244
中野さんの文体	247
論争屋廃業の弁	249
川端稲荷	250
ディヴェルティメント一五番	252
執行猶予	253
病床雑感	255
病室の思想	258
ゴルフ赤毛布	260
一腑足りない	264
六十の手習い	265
五十のピアノ手習いの記	267

トルストイ『戦争と平和』	272
ベルリン・オペラを観て	274
文士の息子	276
私の旅情——スイス	278
武蔵野	280
斗酒四十年	281
梅崎春生の死	283
ひがみ高原	284
ピアノと作曲	286
叔母の墓と本	288
オペラ好き	289
作曲家の憂鬱	292
ビートルズとデモの間にて	293
最後の家長	296
モーツァルト歌劇の意味	299

亀井さんの思い出

悲劇喜劇

うちそと

ベスト五——ことしの回顧

ナポレオンの首

サンフォニー・コンセルタント

犬来たる

泰三のこと

細菌と共存

アベック語源考

硫黄島の正月

六十の引越し

つらい夏

奇妙な夏

日記

某月某日

吉川さんの思い出

ゴルフとタバコ

記者時代の教訓

富士山

外国における日本人

思い出

富士

サクラとイチヨウ

同級生交歓

ロック音楽と私

「信太妻の話」を読む

歌がるたの思い出

私の上に降る雪は

詩人と音楽

漱石の恋
鷺の左眼

補遺

セザンヌ ジャック・リヴィエール

スタンダール

スタンダール——テエヌ(部分)

小説の面白さについて

鎌倉通信

マキアヴェルリとヒットラー

アンリ・ブリュラール伝 スタンダール

野火(部分)

『酸素』創作ノート

『井伏鱒二作品集』解説

現代小説作法 二

文学とは何か

詩と音楽

ケルビーノ礼讃

ホモ・ルーデンス

歴史小説論

遺稿処理史

『花影』限定版あとがき

解題

池田純益

477

472

468

455

450

443

436

422

422

419

408

402

評論
四

